

3. 1) マイクロ波加熱した調乳と、100°C10分蒸気滅菌した調乳を冷蔵庫に24時間保存したが、両者とも殆ど菌の存在を認めなかった。

2) 調乳 1ml 当り 15×10^5 の *E. coli* (24時間培養) を加えたものをマイクロ波加熱して、殺菌効果を調べたが、庫内に収納した哺乳瓶の本数、庫内の位置にかかわらず、完全に死滅していた。しかし、*Bac. subtilis* (培養7日) を加えた調乳では菌の残存が認められた。

A-30 マイクロ波加熱による調乳の殺菌 (第2報) 加熱条件と殺菌効果について

日本女大家政 ○青島 郁子
川名 光子
相模原病院 長久保淑子
日本女大家政 野崎 幸久

1. 第1報に同じく、病院における調乳の中央化をマイクロ波加熱により実施したとき問題になる殺菌効果を

1) 作業能率を高めるため1日分、同時調乳を行ない、低温に保存した場合

2) 未熟児を対象とした調乳の完全殺菌について検討を行なった。

2. 実験に供した調乳、哺乳瓶、電子レンジは第1報に同じ。一般細菌数はブドウ糖加肉汁寒天で平板培養法により検査し、殺菌効果を調べるために、調乳に培養菌液を添加したが、供試菌の消長は、*E. coli* の場合は遠藤培地、*Bac. subtilis* には肉汁寒天を用いて調べた。マイクロ波加熱は、第1報の結果に基づき、哺乳瓶容量の1/2量の調乳をいれて液層の温度差を少なくし、液面より1cm沸騰するまで加熱した。調乳の保存は電気冷蔵庫(温度5°C)を使用した。